

生老病死 と 森田療法

神経症・うつ病・パニック障害や、ガン・難病の闘病中における不安・心配・死の恐怖など、人生の折々における困難に直面した際の、上手な対処法を学べる健康セミナーです。
人生の危機管理術を学びに、是非お気軽にご参加下さい。

- 【開催日】： 2018年 2月 10日 (土)
【時間】： 14:00~16:30 (開場 13:30)
【会場】： 岡山シンフォニーホール イベントホール
(岡山駅より徒歩15分 路面電車「城下」下車すぐ)
【定員】： 80名 【参加費】： 無料



【申込方法】:

往復ハガキ 又は FAX に①~④をご記入の上、下記の間合わせ先までお送りください。

①「第10回心の健康セミナー申込」 ②申込者氏名(同伴者名) ③住所 ④電話・FAX

※ 往復はがき申込締切日：2月1日(当日消印有効)ただし、定員に達した場合はその時点で締め切り ※

『 森田療法と三省会 』

伊丹仁朗 すばるクリニック院長・日本森田療法学会理事

『 森田療法を日常に役立てている三省会の方々 』

➤ 森田療法実践体験談

島浦順介 ・ 大鳥哲治 ・ 野田啓一

➤ 質疑応答

主催 : すばるクリニック
共催 : NPO 法人 生活の発見会岡山 ・ 生きがい療法ユニオン
後援 : 日本森田療法学会 ・ (公財)メンタルヘルス岡本記念財団

【問合せ先】 すばるクリニック
710-0253 倉敷市新倉敷駅前2-29 電話・ファックス: 086-525-8699





もりたしょうま

森田正馬

・・・高知県野市町^{うさいだ}兔田で生まれ育った森田正馬は、9歳の時、村のお寺で極彩色の地獄絵をみて、死の恐怖に襲われ、この頃から死の恐怖をいかに克服するかが、人生上のテーマとなりました。精神医学の道に進んでからもこの課題の研究、試行を重ねた結果、40歳にして「死を恐れるのは当たり前、それはそのままに有意義に生きること」に集中すべき」との境地に達し、これをベースに森田療法の開発・完成に至ったのであります。

さんせいかい

三省会

・・・三省会は平成26年末まで京都市東山区で診療を行っていた三聖病院に入院あるいは通院していた修養生（患者）を中心に結成されている会です。2ヶ月に1回（年6回）、院長をされていた宇佐晋一先生をお迎えして例会を開催して会員の親睦と修養を図っています。かつては病院内で例会を開催していましたが、現在は京都市内の会議施設で行っています。

さんせいびょういん

三聖病院

・・・神経症を治療する森田療法を実施していた病院で、森田正馬先生の直弟子である初代院長の宇佐玄雄先生が昭和2年に創設された病院です。昭和32年にご子息の宇佐晋一先生が引き継がれました。院内には森田正馬先生ゆかりの関連資料が多数ありました。

演者紹介・演題

【 島浦 順介 】 森田療法と運命の出会い ～三聖病院で学んだこと～ (仮)

1981年生。神戸市出身。大阪教育大学特別支援教育課程卒業。卒業後、小学校、特別支援学校に勤務。幼少期より吃音や過敏性大腸症候群等の神経症に悩む。H26年三聖病院最期の年に計3ヶ月入院。森田療法を体得し現在は三省会役員の仕事を担う。一昨年秋より森田療法学会に入会し昨年初めて熊本での学会に参加。学会認定指導員の資格が今の目標。教育現場に森田療法を導入するのが夢である。

【 大鳥 哲治 】 生老病死 あらゆる不安への対処法 ～無対策の対策および宇宙的無意識に生きる～

72歳。精神神経科専門薬剤師。旧三聖病院事務主任。日本森田療法学会・会員。40代に森田療法・原法（宇佐晋一先生）の治療を受け、宇宙的無意識に目覚め、人生が大きく転換した。体験報告は国際森田療法、日本森田療法学会で4回にわたり発表している。

【 野田 啓一 】 「あるがまま」の説明は不要

1957年大阪府に生まれる。1981年大阪市立大学医学部卒業。大阪市立大学附属病院麻酔科にて研修。1984年住友病院麻酔科勤務。1989年三省会入会。2007年済生会富田林病院副院長。現在、介護老人保健施設勤務。三省会会長。